

米国銀行株式の市場動向 ～大手銀行の相対的に良好な決算を受けて～

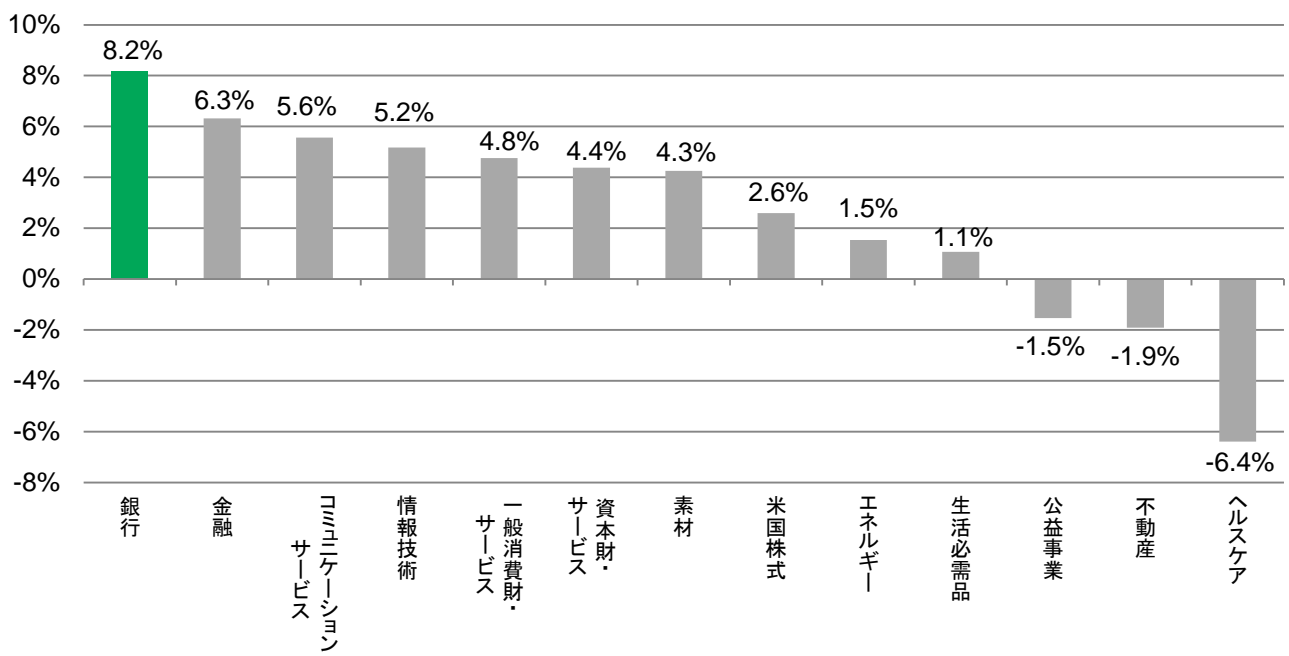
米国銀行株式は、3月下旬に、金利の低下および長短金利の逆転「逆イールド」が発生したことに伴い、収益が圧迫されるとの見方から、大きく下落しました。4月に入り、都市銀行や大手地方銀行を中心に2019年第1四半期の決算が発表されており、これまでのところ総じて良好な業績が示されています。

- 4月18日時点でS&P総合1500銀行株式指数の構成銘柄(108銘柄)のうち47銘柄が決算発表済み。
- 前年同期比でプラスの増益率を示した銀行は36銘柄(うち19銘柄は+10%以上の増益率)。
- アナリスト予想を上回るEPS(1株当たり純利益)を発表した銀行は29銘柄。

これらを背景に、銀行株式セクターは4月に入り大きく上昇しています。

今後、残りの地方銀行等についても堅調な決算発表が予想されます。弊社では、3月の米国銀行株式の下落は、米国銀行のファンダメンタルズが良好であるにもかかわらず、下落しすぎたと見ていましたが、今回の一連の決算発表は、それを裏付ける結果になると考えます。2019年も「貸出残高の伸びを中心とした収益増加」や「コスト削減効果」などを背景に米国銀行の堅調な業績が予想されることに加え、今後も活発なM&A(買収・合併)による事業拡大・効率化が米国銀行の利益増加につながると期待されます。さらに、足元のバリュエーションは割安な水準にあると見られることから、引き続き、米国銀行にとっては魅力的な投資機会が存在していると考えます。

米国株式：業種別騰落率(配当込み)
(2019年3月末～4月18日)



※米国株式：S&P500種指数、米国株式各業種：S&P500業種別指数

※決算数値は2019年4月18日現在のS&P総合1500銀行株指数の構成銘柄のうち、決算情報が入手できたものを集計しています。

出所：ブルームバーグのデータをもとにマニユライフ・アセット・マネジメント株式会社が作成

【ご留意いただきたい事項】

- 当資料は、情報提供を目的としてマニユライフ・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」といいます。)が作成した参考資料であり、特定の有価証券等の取得勧誘や売買推奨を行うものではありません。
- 当資料は、信頼できると判断した情報に基づいておりますが、当社がその正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の記載内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更される場合があります。
- 当資料のいかなる内容も将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料の一部または全部について当社の事前許可なく転用・複製その他一切の行為を行うことを禁止させていただきます。
- 当資料に記載された見解・見通し・運用方針は作成時点における当社の見解等であり、将来の経済・市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません。

マニユライフ・アセット・マネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第433号

加入協会:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会